

○まずは音読を三回しよう！大丈夫なら、できるだけ大きな声で！（ストレス発散！）

一 詩についての学習をしましょう。正しいものに○をつけ、（ ）に当てはまる言葉を入れましょう

○この詩は①（ 四つ ）のかたまりからできている。

詩のこうした言葉のかたまりのことを②（ 段落 ・ 連 ）と言う。

○「わたしはふしぎでたまらない」というフレーズがくりかえされている。

このような表現技法のことを③（ 倒置法 反復法 比喻 ）という。

○「わたしはふしぎでたまらない／銀に光っていることが。」このような、言葉の順序が逆になっている表現を④（ 倒置法 反復法 比喻 ）という。

詩は言葉の数が少ないので、いろいろな表現の工夫がされている。

↓表現技法

二 内容について読み取ろう。

① あなたが身の回りのことで「ふしぎ」と思うことはなんですか？

② 作者はどのようなことを「ふしぎ」と思っているか。まとめてみよう。

・一回目 黒い雲から降る雨が 銀に光っていること。

↓黒（暗）と銀（明）が対比になっている。

・二回目 青いくわの葉食べているかいこが 白くなること。

↓青（暗）と白（明）が対比になっている。

・三回目 たれも（誰も）いじらない夕顔が ひとりではらりと聞くこと。

・四回目 たれ（誰）に聞いても笑ってて、あたりまえだということ。

↓「わたし」がいろいろなことをまわりの人に聞いても、「それはあたり

まえのことだ」とみんなが笑っていること。

四 ①と②を比べてみましょう。同じところ、違うところはどこですか。

五・六 感想をまとめてみよう。

身の回りには、当たり前だと思っても、実は不思議なことがたくさんあります。あなたが「ふしぎ」と思うことは何ですか？改めて、自分の周りの物事を見つめ直し、自分なりの「ふしぎでたまらないこと」を探してみてください。そしてそれを詩の形でまとめてみよう。